

令和元年6月3日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02382

研究課題名(和文)17-18世紀フランス文学における「恋愛論争」の間テクスト的研究

研究課題名(英文) Intertextual study on discussions about love in French literature of the 17th and 18th centuries

研究代表者

藤原 真実 (Fujiwara, Mami)

首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号：10244401

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究期間内に2回にわたりフランスおよび日本の研究者を招聘して国際研究集会を企画・開催し、17-18世紀フランス文学における「恋愛論争」の起源とその誕生の過程、さらに16世紀から20世紀までのフランス文学における系列(狭義の間テクスト性)と思想論争の展開について貴重な知見を得た。以上を踏まえて17-18世紀のテクストを分析した結果、『美女と野獣』に代表されるフランス17-18世紀の妖精物語が、古典古代以来書き継がれてきた文学作品に取材し、複数の書き手による複数の作品間に繰り広げられる対話をとおして繰り上げられていった過程が明らかになった。現在はこの成果を単行書としても発表する準備を進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、『美女と野獣』をはじめとする17-18世紀の文学的妖精物語が、口承の民間説話よりもむしろ、古典古代以来文字に書かれた文学作品に取材し、複数の書き手による作品相互間の対話のなかで繰り上げられ書き継がれていった過程に光を当てるものである。それにより、従来のフランス文学史には記載されてこなかった『美女と野獣』のような妖精物語群を文学作品として正当に評価し、その作者たちを文学史のなかに位置づけるとともに、こんにち映画をはじめとする多様な文化に浸透し伝説化したそれらの物語の重要な根源の一つとして17-18世紀フランス文学を再評価することを提案する。

研究成果の概要(英文)：The two International Research meetings that we organised where we invited both French and Japanese scholars brought us important findings about the discussions of love in classical antiquity and about the development of the intertextual movements in 17th and 18th century French literature. Based on these findings, we studied and analysed French literary texts of this period and came to elucidate the process in which THE BEAUTY AND THE BEAST and other French literary fairy tales elaborated themselves: they have drawn not only from folk tales of oral tradition but also and further strongly from written literary tradition, starting from Latin literature such as Apuleius' Metamorphoses. Careful reading shows us that these fairy tales are the result of continuous dialogues with written literature tradition dating from the classical antiquity and especially with 17th century French novels and stories. The result is now being prepared to be published as a book.

研究分野：17-18世紀フランス文学

キーワード：17-18世紀 フランス文学 恋愛論 妖精物語 恋愛地図 間テクスト性 対話 美女と野獣

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

マルク・ソリアノ (1968)、レーモンド・ロベール (1981)、アンヌ・ド・フランス (1998)、ナディーヌ・ジャスマン (2002) 等による従来の代表的な妖精物語研究は、17-18 世紀フランスの妖精物語が口承の民話に取材して書かれたという前提のもとに、深層心理学を援用してそこに集合的無意識を指摘してきた。同様の還元的解釈は、2008 年にヴィルヌーヴ版『美女と野獣』の初の校訂版を出したピアンカルディのような研究者によっても踏襲されたのであり、17-18 世紀フランスの妖精物語に関して、書かれた文学作品を対象とする典拠研究は十分になされてこなかった。本研究代表者は 2007 年の紀要論文「怪物と阿呆」において、『美女と野獣』(1740) とそれ以前に書かれた妖精物語群の間テキスト性に着目し、17-18 世紀の文学界に恋愛をめぐる論争が起こっていたこと、それが一連の物語の生成に深く関わっている可能性などを示唆した。その後の研究のなかで、17-18 世紀フランス妖精物語群の生成には、17 世紀前期から中期にかけてフランスで書かれたバロック小説をはじめとする文学作品が深く関係している可能性を追究し、とくにスキュデリー嬢の『クレリー』とそのなかで誕生した「恋愛地図」が恋愛論争の一つの発端となったとする研究成果を、2012 年の邦文論文「恋愛地図」で読む『美女と野獣』—連作(セリー) 的読解の試み」と 2014 年の欧文論文« Une lecture de *La Belle et la Bête* selon la Carte de Tendre »に発表した。

2. 研究の目的

本研究は、17 世紀前期から中期にかけて書かれたいわゆるフランス・バロック小説群とそれ以降の文学作品、とりわけ 17 世紀末から 18 世紀中期に書かれた妖精物語群のなかに見られる緊密な間テキスト性を掘り起こすことにより、『美女と野獣』をはじめとするフランスの文学的妖精物語群が、それまで考えられていたように民間説話に直接由来するのではなく、古典古代以来書き継がれてきた文学作品に取材しながら、作者と作者、作品と作品の間で展開される対話と議論を通して練り上げられていったことを明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、第一に 17-18 世紀フランスの妖精物語群と 17 世紀バロック小説およびその他の小説の精読と分析の作業を行うこと、第二に、国際研究集会の開催によって日仏研究者の研究成果の提供を受けることをとおして、フランス文学における恋愛論争の諸様態を明らかにすると同時に、恋愛論争を含むさまざまな思想論争が文学作品のなかで展開した跡を、狭義の間テキスト性、すなわち「系列」の理論(シルヴァン・ムナン)をもちいて 17-18 世紀の文学テキストのなかにあぶり出すという方法を探る。

4. 研究成果

2016 年 10 月にはフランスの哲学者で 18 世紀小説の研究者ジゼル・バルクマン氏を招聘して研究集会「フランス文学と愛」を開催し、首都大学東京の西洋古典学者ジョスラン・グロワザール氏を加えて、古典古代における「恋愛論争」の起源とフランス文学における「恋愛論争」の関係性、17-18 世紀フランス小説における論争の展開について、貴重な知見を得ることができた。さらに 2017 年 10 月には、フランスから 18 世紀フランス文学研究者シルヴァン・ムナン氏とジュヌヴィエーヴ・アルティガス＝ムナン氏を、さらに京都大学名誉教授吉川一義氏を迎えて研究集会「系列」と「論争」を通して見るフランス文学」を開催、16 世紀から 20 世紀までのフランス文学における「系列」と「思想論争」の機能と所産について、きわめて有益な発見に満ちた講演と討論をすることができた。以上 2 回の研究集会はすべてフランス語で行われたが、吉川一義氏のものを除くすべての原稿を藤原が翻訳して『人文学報』513-15 号(2017 年)

および514-15号(2018年)に掲載した。

https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=1323&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page_id=30&block_id=155

https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=1520&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page_id=30&block_id=155

以上を踏まえて17-18世紀のテキストを分析した結果、『美女と野獣』に代表されるフランス17-18世紀の妖精物語が、古典古代以来書き継がれてきた文学作品に取材し、複数の書き手による複数の作品間に繰り広げられる対話をとおして練り上げられていった過程が明らかになった。この成果の一部は、2016年の論文「恋愛地図」の討論会および翻訳『美女と野獣〔オリジナル版〕』の解説のなかにも書いているが、現在はその後の研究成果をまとめて単行書として発表する準備を進めている。



研究集会「フランス文学と愛」 2016年10月26日(水)

会場: 首都大学東京(南大沢) 国際交流会館 中会議室

(第二部のみ、「レストラン・ヴェンヴェール南大沢」にて実施)

入場無料、事前予約不要 使用言語: 第一部と第三部はフランス語、日本語訳の配布・通訳有

13:15-14:45 第一部 恋愛論の源流へ

趣旨説明 藤原真実(本学教授)

講演 「イタリア・ルネサンス期の人文主義者マルシリオ・フィチーノとプラトニックラブ」
ジョスラン・クロワザール(本学准教授)

司会=西山雄二(本学准教授) コメント=ジゼル・ベルクマン(国際哲学コレージュ)

15:00-16:00 第二部 レクチャー・コンサート「フランス音楽と愛」

レクチャーと歌唱 大久保康明(本学教授) ピアノ伴奏=鈴木麻純(本学学部生)

(16:00-16:20 コーヒーブレイク)

16:20-17:50 第三部 フランス18世紀小説と愛

講演 「激情的な愛から昇華された愛へ——『マノン・レスコー』と『新・エロイズ』」

ジゼル・ベルクマン(国際哲学コレージュ)

司会=西山雄二(本学准教授) コメント=藤原真実

通訳: クリス・バルド(本学助教) 問い合わせ: フランス語圏文化論教室 Tel: 042-677-2205
主催: 教育文化庁基金「国際性を育む先端領域的な『比較文学』教育プログラム」
科学研究費助成事業「17-18世紀フランス文学における『恋愛論争』の断片的な研究」

研究集会
「系列」と「論争」を通して見るフランス文学

日時: 2017年10月25日(水) 13時~18時
会場: 首都大学東京(南大沢キャンパス) 国際交流会館
(フランス語 入場無料 通訳・通訳あり)

第一部 13:00~14:45 司会: ジョスラン・クロワザール(本学准教授)
趣旨説明: 「仮想討論会としてのフランス文学」 藤原真実(本学教授)
「18世紀の小説と思想論争」 ジュヌヴィエーヴ・アルティガスムナン(パリ第12大学名誉教授)
「18世紀の思想論争をめぐる——バルザック作品からのアプローチ」 大須賀沙織(本学准教授)

第二部 15:00~16:00 レクチャー・コンサート: 「系列」、「論争」の観点から室内楽・声楽作品を考える
司会: フルード 村中由美子(本学助教) フルード 山本遊(本学准教授)
歌唱(チノール) 大久保康明(本学名誉教授) ビアノ 鈴木麻純(本学大学院生)
歌唱(ソプラノ) 大久保藍(東京芸術大学音楽学部学部生)

第三部 16:15~18:00 司会: ジョスラン・クロワザール
「思想論争の系列的構造」 シルヴァン・ムナン(パリ・ソルボンヌ大学名誉教授)
「『コリドン』から『ソムとコモラ』へ——最近それとも対立?」 吉川一義(本学および京都大学名誉教授)

質疑応答 (通訳: ジョスラン・クロワザール/村中由美子)

問い合わせ: フランス語圏文化論教室 Tel: 042-677-2205
主催: 首都大学東京 文芸学研究所 フランス文学教室
科学研究費助成事業「17-18世紀フランス文学における『恋愛論争』の断片的な研究」
共催: 科学研究費助成事業(6)「18世紀における知識とマナー」 秩序: 公共知の東西出版
後援: 日本18世紀学会、『百科全書』、啓蒙研究会

資料1 研究集会(2016年)プログラム

資料2 研究集会(2017年)プログラム

さらに、恋愛だけでなく多様な哲学的問題が作品と作品の間に対話と論争を生じさせ、その結果書かれた複数の作品が「系列(セリー)」を形成するという狭義の間テキスト性について、主にロベール・シャルと哲学的地下文書を対象として研究した。17-18世紀における文学作品の独特なありようとその生成の様態に光を当てるこの研究は、本研究の重要な基盤をなす。本研究代表者は、今後は恋愛を含む多様な論争を対象を拡げて本研究を発展させてゆく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

① 藤原真実 『宗教についての異議』と「神聖なる商売」をめぐる対話—シャル、ボシユエ、シモン」、『人文学報』、査読無、515-15号、2019年3月、pp.209-240。

- ② 藤原真実 「仮想討論会としてのフランス文学」、『人文学報』、査読無、514-15号、2018年3月、pp. 3-9.
- ③ 藤原真実 「趣旨説明 恋愛論の源流へ」、『人文学報』、査読無、513-15号、2017年3月、pp. 341-345.
- ④ Mami Fujiwara, « Le ‘sacré commerce’ selon Robert Challe, Bossuet, Richard Simon et les Difficultés », *Bulletin de la Société des Amis de Robert Challe*, 査読有, 2017, pp. 47-63.
- ⑤ Mami Fujiwara, « *Les Difficultés sur la religion et Le Militaire philosophe* », *La Lettre clandestine*, 査読有, 2016, pp. 287-295.
- ⑥ 藤原真実 「「恋愛地図」の討論会」『人文学報』査読無、第511号、2016年3月、pp.321-339.

〔学会発表〕（計5件）

- ① Mami Fujiwara, Francesca Frontini, « Approches numériques des questions d’auctorialité (3). Bilan et perspectives de l’enquête dans le corpus chalien », Séminaire du programme Challe du LABEX OBVIL, organisée et animée par Geneviève Artigas-Menant et Christophe Martin, samedi 17 mars 2018, en Sorbonne.
- ② Mami Fujiwara, « La littérature française comme colloque virtuel », 研究集会「「系列」と「論争」を通して見るフランス文学」、首都大学東京、2017年10月25日。
- ③ Mami Fujiwara, Francesca Frontini, « Approches numériques des questions d’auctorialité (2) : à propos du 4^{ème} Cahier des *Difficultés sur la religion* de Robert Challe », Séminaire du programme Challe du LABEX OBVIL, organisée et animée par Geneviève Artigas-Menant et Christophe Martin, samedi 11 mars 2017, en Sorbonne.
- ④ Mami Fujiwara, « Pour remonter le fil du débat sur l’amour », 研究集会「フランス文学と愛」、首都大学東京、2016年10月26日。
- ⑤ Mami Fujiwara, « Le sacré commerce selon Robert Challe », *Robert Challe et le commerce*, table ronde du 27 juillet 2015, ISECS2015, Erasmus University, Rotterdam.
<http://robert-challe.org/sites/default/files/Bulletin-Challe-2017.pdf>

〔図書〕（計2件）

- ① Geneviève Artigas-Menant, Carol Dornier (eds), Mami FUJIWARA et al., *Paris 1713 : l’année des Illustres Françaises*, Peeters, 2017. VIII-398p. (うち藤原執筆分 : p. 295-307.)
ガブリエル・シュザンヌ・ド・ヴィルヌーヴ著、藤原真実翻訳・解説『[オリジナル版] 美女と野獣』、白水社。2016年12月。174ページ（うち解説163-173ページ）

〔その他〕

国際研究集会の主催

- ① 研究集会「「系列」と「論争」を通して見るフランス文学」、首都大学東京、2017年10月25日。（資料2）
- ② 研究集会「フランス文学と愛」、首都大学東京、2016年10月26日。（資料1）

6. 研究組織

研究協力者

ジゼル・ベルクマン (BERKMAN, Gisèle)、グロワザール・ジョスラン (GROISARD, Jocelyn)、

シルヴァン・ムナン (MENANT, Sylvain)、ジュヌヴィエーヴ・アルティガス＝ムナン (ARTIGAS-MENANT, Geneviève)、吉川一義 (YOSHIKAWA, Kazuyoshi)、大須賀沙織 (OSUGA, Kaori)、フランチェスカ・フロンテニ (FRONTINI, Francesca)。